



新しいふるさとづくりについて  
県で提唱されている「新しいふるさとづくり」というものはどんなものですか。ふるさと・熊本のあるべき姿というか、描かれているふるさとイメージについてお答えください。  
熊本市・主婦

県が提唱しています。新しいふるさとづくりは、一口でいえば、県民の皆さんと一体となって、温かい心のふれ合い、活力に満ちた地域社会を作ろうというものです。  
いわば、県政をすすめていく上での基本的な理念といえるもので、次の四本の柱から成っています。  
第一番目には、美しい熊本の自然を大事にしなが、豊かな生活環境をつくるということ。す。  
高度経済成長の過程において、自然はもとより、お互いの生活環境までが破壊

されています。その中にあって、熊本県は、比較的開発が遅れているために、まだまだ自然の良さが残っています。この残された自然を大事にしなが、生活環境をも快適なものにと考えています。  
第二番目には、祖先から受け継いだ文化や伝統を大事にしたいと考えています。

ことさら勝れた文化や芸能だけということではなく、それぞれの地方に伝わる四季折りの、昔ながらの行事を掘り起こしたい、伝統工芸をもう一度見直すのではないかと考えています。

第三番目には、地域連帯の確立です。精神的なことになります。現代のように思いつく昔のふるさととは、現代のように無味乾燥な地域社会ではなかった筈です。困った時にはお互い助け合おうという温かい心のふれ合いがありました。人間同志の信頼関係がありました。そんな地域社会をつくりたいと考えています。  
第四番目には、活力のある産業の展開が必要です。

生活を充実させるためには、古き良き時代に憧れるだけではいけません。活力のある産業が展開されることが不可欠です。結果として、所得の増大が図られ、私たちの生活が潤わねばなりません。  
以上四本の柱が新しいふるさと「熊本」のめざすべき基本的な方向だと考えております。

※国民の生活様式や意識が変化し、ゴミ処理や省資源などが社会的な問題として台頭してきた。

「消費者は王様」という迷文句に代表される昭和元禄時代は、石油ショックで別れを告げ、住民の間でも、資源を大切にすることを芽生えつつあることは喜ばしい。しかしながら、行楽期ともなれば各地の海や山がゴミや空カンの山にうずもれてしまうことには変わりはない。

県では住みよい郷土を築くため「美しい熊本づくり」県民運動を推進、特に昨年「ゴミやタバコの吸いながら捨てない運動」を展開し、着実な成果を収めている。しかしながら、心な一部の人には、ゴミやタバコ、空缶等を平気で道路、河川の公共施設に投げ捨てたり、シンボル花壇に植えた草花を無残に引き抜いたり、踏み潰したり、その所業は目に余るものがある。美化運動は自然の景観の美化だけでなく、豊かな心を育て、連帯意識を高めようとしている矢先だけにショックは大きい。ただのいたずらでは済まされたい。

※人情味豊かな熊本は、美しい自然と温暖な土地柄に恵まれ、数多くの県産品が生産されていることをご存知だろうか。  
主な県産品は、清酒、焼酎、味噌、醬

# もつす

油、竹輪、かまぼこ、ジュース、茶、木材、陶器等々。優秀な数多くの県産品がありながら、県外商品の流入シェアは県産品を大きく上回り県産品の消費量を落ち込ませた。  
そこで昨年五月から県や商工団体、業界が一丸となって県産品愛用運動を展開する中で、(1)県産品の知名度(2)消費者の理解度(3)県民意識などについて検討。この運動が実を結ぶには行政指導もさることながら、地場企業が消費者のニーズを積極的に先取りしていく姿勢、すなわち業界の努力こそが不可欠な要素であるとの基本線で一一致をみたという。ただし、当然の帰結ではあるが、他に決め手とてない。大いに業界の精進を期待したい。

明るいニュースで球磨焼酎を例にとれば東京で凄いブームに乗り、売り上げは約四十万本を越え、販売額も約三十億円の大打に迫ったという。ゼロから出発して十年間、地道に販売基盤を確立し焼酎ブームをつくり上げた功績を賞賛したい。鹿児島産の焼酎に押され気味の熊本に東京からハッパをかけるという意気込みは時宜を得たもので大いに結構。業界でもキメ細かいサーピスと販路拡大を更に推進されるよう切望したい。

## 施設紹介

# 熊本県工業試験場

### 技術相談

### 依頼試験

### 技術指導

### 技術開発研究

### に取り組んでおります。

熊本県工業試験場は熊本市の東部、第二高等学校の北側にあり、工場の皆様の技術的ニーズに因ずるため、国・日本自転車振興会などの援助も得て各種の試験研究設備七百七十余点を整え、県内工業技術向上を目指して研究を進め、その成果をもって指導に臨んでおります。  
その分野は化学、食品、機械、金属、工芸(木竹、窯業)それに土木部門と多岐にわたっております。  
▽化学部門  
各種鉱物や化学製品、燃料また工場用

排水の分析試験などが行えます。

### ▽食品部門

こちらも非常に範囲の広い食品の各種成分、栄養成分、食品添加物の分析が出来また有用微生物の培養などが出来ます。

### ▽機械部門

金属材料の各種強度、硬さ、部品などの精密な計測、各種の機械工作、プレス加工試験が出来ます。

### ▽金属部門

鉄鋼中の成分分析、溶接部のレントゲンによる検査、鋳物砂などの試験が出来ます。

### ▽工芸部門

木材の水分、強度試験や椅子など家具実物強度試験、塗装試験が出来ます。また窯業原料の耐火度試験や、その強度試験が出来ます。

### ▽土木試験部門

土質、コンクリート強度、またアスフ

ルトが試験出来ます。これらの、能力を活かして工業製品の品質、工事の出来ばえを高め、コストダウン、省力化を図

り、また県内資源の有効活用と、生産途上公害の発生を防止する技術について研究しているところです。



▲ 陶器をつくるための基礎技術を習得中の研修生